

ふくしま グローバルセミナー

2018

実施報告書

日時

平成30年9月22日(土) 10:00～
23日(日) ～11:50

場所

JICA二本松

主催：福島県国際理解教育ネットワーク(FIENET「ファイネット」)

◎構成団体

福島県、福島県教育委員会、公益財団法人福島県国際交流協会、JICA二本松
(独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局二本松青年海外協力隊訓練所)

グローバルセミナーとは

グローバルセミナーは、二本松市にJICAの青年海外協力隊訓練所が設置されたことを契機に、1997年に「東日本国際協力セミナー」という名称でスタートし、2018年をもって通算で22回目の実施となりました。

回を重ねるごとに、内容の充実を図るなど、工夫を凝らしてきたグローバルセミナーは、毎年、県内外から多くの方々の御参加をいただき、今回も高校生からシニア世代まで、幅広い経歴の方々が一堂に会し、寝食をともにしながら議論や体験を共有することにより、新たな出会いや発見や気づきを生み出す場とすることができました。

本セミナーは、講座を担当する講師も一参加者としてその相互の学び合いに加わり、“参加型の学びの場”が形成されるような運営を心掛けてきました。

このセミナーを通じて、まさに “Think Globally, Act Locally” を実践する福島発の多彩・多様な国際協力・国際交流の形を知ることができます。

参加された方々の中には、国際協力を専門的に学べる学校に進学した方や青年海外協力隊に参加された方、国際協力を行うための活動に乗り出した方など、行動を起こした方々が数多くおり、セミナーの開催趣旨である人材育成に少なからず寄与できているのも、参加者一人一人が本セミナーにおいて深く学び、真摯に思いを受け止めてくださった賜物にほかなりません。

2003年からは、福島県内の学校や地域における国際理解教育の普及や質の向上などの推進のために、福島県国際課・福島県教育委員会・JICA 二本松（独立行政法人国際協力機構青年海外協力隊事務局二本松青年海外協力隊訓練所）・（公財）福島県国際交流協会の4団体が連携・協力して、より効果的に事業を展開していこうと組織された「福島県国際理解教育ネットワーク Fukushima International Education Network（F I E N E T・フィーネット）」の事業として主催しており、講師を含めた参加者の皆さんが、意義を強く感じるセミナーに育ててきてくださっていることに深く感謝いたします。

セミナー実施内容

- 1 開催趣旨 学校や地域において、国際交流、国際協力、多文化共生、国際理解教育・開発教育等の活動を担う人材を育成する。
外国出身者などによる母国紹介や、国際協力現場レポートなど、20講座（自主セッションを除く）を実施。
- 2 開催日時 平成30年9月22日（土）～9月23日（日）
- 3 開催場所 JICA二本松青年海外協力隊訓練所
- 4 参加者数 144名（高校生73名、大学生18名、一般53名）
（1日のみ参加：43名、両日参加：101名）
※講師、スタッフを除く



開会式



(10:00~10:15)

9月22日(土)

あいさつ

福島県生活環境部国際課 課長 國分 健児

福島県教育庁高校教育課 主幹 遠藤 利晴



オープニングセッション



(10:15~11:15)

全体講師：八木 亜紀子 さん（認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR））



- ◆ 講座のねらい
 - (1) ほかの参加者のことを知り、自分のことも紹介すること。
 - (2) 講座へのモチベーションを高めること。
- ◆ 講座の内容
 - (1) 講師自己紹介と「参加のルール」※の紹介
 - ※協力しよう、ほかの人の話をよく機構、否定しない、など4点ほど紹介
 - (2) グローバル・ビンゴ：1人1枚ビンゴシートを持って、他の人にインタビューしながらセルを埋めていく人間ビンゴ
 - (3) グループ内で自己紹介
- ◆ 受講者の声
 - ・たくさんの方と話をすることができました。様々な考え方や価値観に触れることができ充実した時間を過ごすことができました。
 - ・初対面の方でも気さくに話していただいたので気持ち良くセミナーのスタートが切れた。
 - ・初めましての人達と交流するための様々なコーナーがあってとても良かった。立派なこととは言わなくてOKが最高だった。
 - ・初めてで緊張したが、時間もちょうど良く、軽いコミュニケーションをとることができ、緊張もほぐれた。
 - ・自分のことを知ってもらう、他の人を知ることで交流ができ、繋がりが作れたため良かった。
 - ・楽しい参加ができました。自分の仕事に生かしていきたい。

ランチ交流会 (11:30~12:45)



県の国際交流員の3人が進行。
 交流員がそれぞれ自己紹介をし、乾杯の一声を上げ、会場の雰囲気盛り上げました。

- ◆ 受講者の声
 - ・オープニングセッションで一緒だった人と早速ご飯を食べられて楽しかった。
 - ・知り合いができこれからのセッションが楽しみとなった。
 - ・おいしかった！色々な人達と色々な話をすることができた。ご飯と一緒に食べると仲良くなれる気がする・・・！
 - ・待ち時間のとき、前後に並んでいた人と会話できて嬉しかったです。日本人だけでなく、いろんな国の方がいました。
 - ・初対面の方ともすぐ打ち解けられて楽しく食事ができた。

セッション1 (13:00~14:30)

講座 A

スマホから考える世界・わたし・SDGs

講座担当者：八木 亜紀子 さん (認定 NPO 法人開発教育協会 (DEAR))



- ◆ 講座のねらい
 - ・スマホの原材料に使われる鉱物に焦点をあて、特にコンゴの紛争鉱物問題から、よりエシカルで持続可能な生産と消費について考える。
- ◆ 講座の内容
 - ・ワークショップ
 - ①導入 (スマホ・ライン) + グループ内自己紹介
 - ②スマホクイズ
 - ③サプライチェーンのカード並べ
 - ④DVD「スマホの真実」視聴 (部分) ⇒ 紛争鉱物取引規制
 - ⑤日本企業の受け止め方、消費者のあり方について意見交換
 - ⑥ふりかえり
- ◆ 受講者の声
 - ・スマホの知らなかったことが知れてこれからの向き合い方が変わったと思う。
 - ・スマホについて知りたくて受けたのですが、自分が思っていたことだけでなく、それ以上のことを知ることができました。
 - ・自分達が普段スマホを使っている裏側で、多くの国の人々が苦勞して働いていることを知って、これからはもっと大切に扱っていこうと思った。
 - ・今、持っているスマホも主に発展途上国などの人の努力が詰まっていることを確認できた。
 - ・スマホがどのようにして作られているか、素材のことまで考えたことは初めてで、その裏側の国の情勢や、取り巻く状況まで深く考えさせられました。

講座 B

貧困について考えよう～バングラデシュと日本～

講座担当者：竹田 朋彦 さん (福島県国際理解教育研究会)



◆ 講座のねらい

- ・写真を通してバングラデシュについて知り、貧困問題に関心を深めるとともに、日本とバングラデシュの事例をもとに貧困の度合いを比較しながら考える。

◆ 講座の内容

1. 貧困のイメージを出し合い、ウェビングで共有する。
2. グループで写真を見て、気付いたことを出し合いタイトルを考える。
3. 写真の解説がどの写真に適切が考え、バングラデシュの豊かさ・貧しさを考える。
4. 2枚の事例からグループでレーダーチャートを考える。
5. 貧困の度合いと構造を比較し、貧困とは何かを考える。

◆ 受講生の声

- ・貧困をテーマに何が本当に貧困なのかがまとめとなってそういう考え方があるのかと視野が広がった。
- ・貧困についてたくさんの意見があって学ぶことが多かった。豊かさの中にも貧しさがある。また逆もしかりであるということに気づかせてもらえたことは大きい。
- ・バングラデシュについてちゃんと聞くことはなかったので参加できて良かった。貧困なのは、経済的なことだけではないと思った。
- ・自分たちで考えて見るということが多くて一つ一つ深く考えることが出来ました。服や帽子など現地に行って来た講師のものを見せてもらいました。楽しかったです。
- ・貧困問題について、実体験を聞いたりしながら知ることができました。グループの人とも楽しく、協力しあって活動することができました。

講座 C

多様性の中で生きる～11か国 240人と41日間の船上生活～

講座担当：松井 智宏 さん（船と翼の会ふくしま/福島県国際交流協会主催事業「ふくしまユースグローバルカレッジ」卒業生）



◆ 講座のねらい

- ・「世界青年の船」の中で起きた事例について考えることを通して、自分の価値観について振り返るとともに、異なる文化に出会ったときにどう向き合うかを考え、異文化を理解するために大切なことは何かに気付く。

◆ 講座の内容

1. アイスブレイク
6か国の言葉で挨拶をしながらグルーピング。グループ内で自己紹介。
2. 世界青年の船の紹介
スライドを使って概要を紹介する。
3. 船で起きた事例について考える。
3つのエピソードについて、どう感じるかを出し合う。
4. 受け入れ難いものに出会ったとき、どうすると良いか考える。
グループで話し合い、全体でシェアする。
5. 多様性の中で生きるために大切なことについて考える。
自分が大切にしていきたいことをワークシートに書く。

◆ 受講生の声

- ・参加型でおもしろかったし他の人の意見もおもしろかった。もっと話を聞きたかった。
- ・講師の方の言葉「受け止めること、伝えること」が大事に同感。
- ・他の国との文化の違いを感じることができ、そうした違いのある上でどうコミュニケーションを取っていくべきかを学べた。
- ・とても多様性というものについて考えさせられた。そして、こうしていくべきかもわかったので、良い講座だった。
- ・グループ間の話合いが充実していた。自分なりの知識などをしっかり持つておくことが、大切だと感じた。

講座 D

役に立つ？立たない？～母国の先住民の歴史、文化、言語教育の必要性～

講座担当者：トビー・バークベックジョーンズ さん（福島県国際交流員）



◆ 講座のねらい

- ・参加者に第二言語教育の必要性とマオリ族などの先住民の歴史、文化、言語教育について考えさせること

◆ 講座の内容

- ・導入：自己紹介→ニュージーランド〇×クイズ
- ・展開：先住民の歴史、文化、言語の話について説明。第二言語の長所・短所や言語教育の必要性があるかをグループで話し合う。マオリ語を勉強すべきかどうかの票決。
- ・まとめ：全体のまとめ

◆ 受講生の声

- ・自分自身ニュージーランドに留学したことがあったのですがこの講座で新しい知識を得ることができたのでとても為になりました。〇×ゲームがとても楽しかったです！
- ・マオリ族について知らなかった新しい知識に触れることが出来た。純粋な面白さと小数語・先住民の言語や文化を学ぶ意義を深く考える経験の両方が出来ました。
- ・初対面の人と話が来て良かった。第二の言語を学ぶことで自分の多様性や日本の歴史を学んだり文学や文化を学ぶことができると感じた。
- ・第二言語について深く知ることで。他のところにも興味がわいた。
- ・ニュージーランドのことなど、知らなかったことを楽しくクイズで知って良かったです。そしていつもは考えないことを改めて考えてみて、人々の意見を聞いて良かったです。

講座 E

東南アジア山岳少数民族の子どもと私たち

講座担当者：宍戸 仙助 さん （NPO 法人シーエスアールスクエア）



◆ 講座のねらい

- ・ラオス・ベトナムなどの山岳少数民族の子どもたちの生活や学校の様子を知り、自分たちができることを考える。

◆ 講座の内容

- (1) ラオスの国の概要と子どもたちの生活を知る。
- (2) クラスト爆弾の不発弾で兄を失った少年の様子を知る。
- (3) 親や家族のために精一杯働き、家族のために役に立とうとする子どもたちの様子を知る。
- (4) 日本の子どもたちがラオスやベトナムの子どもたちのために家族や井戸を寄附している姿を知る。
- (5) 生まれた時から手足のないオーストラリアの青年の生き方を知り、人の役に立つ生き方の大切さを知る。

◆ 受講生の声

- ・改めて当たり前の生活をおくれること、何事もなく一日を過ごすこと、自分のやりたいこと、夢がかなうことは、すごく幸せなことだと思いました。
- ・ラオスの子供の現状を知ることが出来ました。本当に素晴らしかった。言葉が通じなくても、心は伝わるんですね。
- ・最初から最後まで楽しくお話が聞けた。本当に心動かされるようなお話ばかりで、心にくるものがたくさんあった。自分も何か将来、人の役に立つ仕事について、笑顔を与えたいと思った。
- ・とても子供達の心はキレイだなと思いました。お互い辛い立場にいるのに、何とか力になりたいという気持ちがあって、素晴らしいと思いました。

講座 F

難民を知るワークショップ～もし、あなたが故郷を追われたら～

講座担当者：阿部 眞理子 さん （認定 NPO 法人 IVY）



◆ 講座のねらい

- ・このワークショップは、一人でも多くの方に「難民」の置かれている状況を知っていただきたいと、2013年9月からイラク北部クルド自治区でシリア難民支援を行っている IVY が、シリアの元 JICA ボランティアの協力を得て制作したもの。難民を疑似体験することで、より身近に難民問題を感じてもらうことを目的としている。

◆ 講座の内容

- ・ワークショップは、各グループがシリアに住む1組のクルド系シリア人の家族になることから始まる。

最初に、クイズ形式で難民について基礎的な知識を学ぶ。そして、家族がシリア紛争に巻き込まれ、難民となってイラク・クルド自治区の難民キャンプにたどり着き、3か月を過ごしたところで次の課題が見えてくるところまでを模擬体験していく。

*ワークショップのシナリオは、IVYの現地職員が難民の方々から聞き取った内容をもとに作られている。

・ワークショップの流れ

1. クイズ 難民を知ろう
2. ラウンド I 「祖国から逃げるか、とどまるか」
3. ラウンド II 「クルド自治区へ」
4. ラウンド III 「キャンプにとどまる？キャンプを出ていく？」
5. 振り返り アンケート記入

◆ 受講生の声

- ・今まで興味があった分野でしたが、さらに興味が見つかりました。
- ・シリア以外の難民について聞きました。6年前は普通に子供たちは学校に通っていたことに驚きました。
- ・難民キャンプに入れたからと言って安心というわけではないことを知りました。難民が減るように努力しなくてはいけないと思いました。
- ・難民について、自分の知らなかったこと、今後どういうことが自分にできるのかを考えられた。
- ・難民について、グループメンバーで話し合いながら、理解を深められて良かった。

講座 G

熱血講座！～グローバル人材を目指す方へ～

講座担当者：洲崎 毅浩 さん（JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 所長）



◆ 講座のねらい

- ・日本が国際協力事業を行う背景と理由、その目的を理解する。
- ・青年海外協力隊員を含めたグローバル人材への関心を醸成する。

◆ 講座の内容

- ・日本が国際協力事業を開始した歴史的背景・理由
- ・現在、日本と世界が直面している様々な課題
- ・日本の繁栄・発展のために世界の安定・平和が不可欠であることの事例紹介

- ・青年海外協力事業の目的・グローバル人材に求められる能力・資質
- ・グループワーク（協働・協同の実際と要諦）
- ・JICA派遣前訓練の概要と訓練の様相（動画）

◆ 受講生の声

- ・JICAにより関心が高まった。何事にも好奇心や探究心を持って取組んでいこうと思った。
- ・とっても楽しい講座を受けられて良かった。洲崎先生の話聞いてJICAに行こうと本気で決めました。
- ・所長の過去を聞くことができ、とても貴重な経験をした。また「〇〇をしたい」と「〇〇になりたい」の差を知れてよかった。
- ・何もスキルがない自分でも、協力隊に挑戦できると背中を押された気がした。
- ・〇〇になりたいと〇〇をやりたいの違いについてお話をお聞きした際に私は、青年海外協力隊になりたいとは思っていても、具体的にやりたいことを自信をもって話せていないので衝撃的でした。しっかり考えられるようになりたいです。

セセッション2 (14:45~15:45)

講座 A

マレーシアに学ぶ障がい児支援～リハビリテーションの専門家としての活動～

講座担当者: 田中 絹代 さん（郡山健康科学専門学校(元青年海外協力隊・シニア海外ボランティア)）



◆ 講座のねらい

- ・国際協力の現場と意義を知ってもらい、活動参加のきっかけをつくる。
- ・障がい児支援の活動を知ってもらう。

◆ 講座の内容

マレーシアの文化社会的背景とこの中で生活する障がい児の様子を伝えたリハビリテーション専門家の1つの職種である作業療法士の仕事、青年海外協力隊、NGOスタッフ、JICAシニア隊員など異なる立場で行ってきた支援の内容や学んだことを紹介した。中でも、青年海外協力隊として「言葉がわからない」経験をしたことで学んだことを実際の参加者に体験してもらい、障がい児支援で大切なことを一緒に考えてもらった。

◆ 受講生の声

- ・支援をしてあげると意識でなく共に理解しあって支援するという形、自分には何ができるのか考えさせられた。
- ・マレーシアの障がい者状況を聞いて、日本との違いに気づくことができた。比較して、互いに良いものを取り入れられる未来をつくりたい。
- ・障がいをもつ方と、どのように接してサポートしていくのか、共に生きるとはどういうことなのか、改めて考える機会になりました。
- ・障がい者の立場を考えてあげることが初めて障がい者支援ができることを学んだ。
- ・マレーシアと日本での障がい者への考え方や見方が社会で大きく違うこと。知ることができた。

講座 B

イランは日本に片思い

講座担当者：内谷 昌史 さん（元テヘラン日本人学校教諭（二本松市立東和小学校教諭））



- ◆ 講座のねらい
 - ・イランでの生活を振り返ることを通して、国同士が分かりあうこと、本当の意味での国際理解と考える。
- ◆ 講座の内容
 1. アイスブレイク 簡単なペルシャ語の会話とイランの第一印象を話し合う。
 2. 講義 イランの現状と私の過ごした3年間の紹介。
 3. まとめ イランへのイメージが変わったか？真の国際理解について考える。
- ◆ 受講生の声
 - ・イランのイメージが変わりました。意識していないと素通りしてしまう情報を気に留めてよく考えることが大切だと思った。
 - ・イランへのイメージががらりと変わりました。色々な人に伝えたいです。
 - ・先生だけあってお話がとても上手でした。イランが思ったよりも信仰がゆるくて驚きました。
 - ・全くイランについて知らなかったけど、親日家が多く多いこと、イランでの暮らしなどが知れた。
 - ・イランについて、いかに限られた情報しか伝わっていないかがわかりました。

講座 C

外国語学習にとって大切なこと～ことばの学び方と楽しみ方～

講座担当者：堀江 弘道 さん（パークレーハウス語学センター（JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 語学訓練調整員））



- ◆ 講座のねらい
 - ・外国語を学ぶ上で大切なことは楽しみながら長く続けること。この講座では、楽しみながら外国語を身につけるコツと語学（ことば）そのものを伝えることをねらいとする。さらにいろいろな語学の特徴を紹介しながら語学の四技能をどのような視点から効率よく学べばよいか、その手掛かりを伝える。
- ◆ 講座の内容
 1. 「語学とは何か？」という問いから、語学はコミュニケーションの道具であり、コミュニケーション能力を高めながら身につける必要性を伝える。

2. 外国語を学ぶための「統合的動機」の必要性と、その動機をもってどのような語学に取り組みれば良いのか、自身の経験や語学に関するビデオなどを見ながら伝える。
3. 読む・書く・聞く・話すという語学の四技能を効率的に身につける手掛かりや、人造語の問題を解く。文法の応用を考える。日本語にない音を発音してみる。実際に活かされている音を聞いてみるなど実際に体験してもらう。

◆ 受講生の声

- ・言語学習で大切なことを学べたので実践してみようと思った。
- ・文法について特に意識せずに勉強してきたが普段とは違った角度からのアプローチで言語における文法的重要性を感じることができた。
- ・英語だけでなく言語を学ぶことについての総合的な内容で、とてもためになりました。
- ・英語の勉強方法に悩んでいて継続が苦手だったので、今日の講義でもう一度勉強方法を見直していきたいと思いました。
- ・英語を身につけたいと思っていて、学校の試験（リスニング）などや GTEC でも活かせるようなものでとてもよかった。そして、勉強、言語学習の意欲がわいた。

講座 D

アフリカの病院～私が目指した安心への第一歩～

講座担当者：大里 郁子 さん （JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 診療室 看護師）



◆ 講座のねらい

- ・協力隊でのウガンダ生活・文化・活動先の病院の状況を紹介することで、ウガンダの抱える問題や協力隊としての支援のあり方、心構えについて知ってもらう。

◆ 講座の内容

- ・自己紹介
- ・ウガンダについて地理・宗教など歴史を少し日本とからめて説明。
- ・生活について衣食住に分けて説明し、特に飲料水とするまで水をどのように確保しているかを伝えた。
- ・活動先の病院の写真を使って1枚ずつ現状と日本を比較するなどして、日本人だから考える問題を説明。
- ・4グループに分け、各グループ1題のワークショップを発表。（写真（ウガンダの現状として渡り廊下、カルテ、薬棚、倉庫）に対する①問題点②原因は何かを考へてみる③改善するための対策）。
- ・5S活動とは？それを実践するまでにどのような支援をどのように行うかを具体的にビフォーアフター写真も含めて紹介。

◆ 受講生の声

- ・ウガンダについて初めて知り生活文化の日本との違いに驚いた。問題点についての取り組みなど、日本の普通と伝えることで改善されるということが知れた。
- ・日本の病院のように整っている病院が増え沢山の人を助けられると良いと思いました。将来看護師になりたいので今日のことを含め頑張りたいと思いました。

- ・ウガンダの医療についてよくわかりました。日本で当たり前の病院の在り方がウガンダでは当たり前ではなく、日本はすごいなと思いました。
- ・アフリカの医療について、伝えることのむずかしさ、協力することの大切さを知り感じました。
- ・2年間5分前行動を伝え続けたら2人できるようになったということや、カウンターパートの成長について聞いて、やり続けることが大切だと感じました。ウガンダならではの生活の仕方や水の飲み方なども知れて、とても勉強になりました。そして面白かったです。

講座 E

君は知らない中国～大媽現象～

講座担当者：小島 梓 さん（つばさ-日中ハーフ支援会）



- ◆ 講座のねらい
 - ・今の中国の社会現象の深層原因をさぐって、本当の中国を知ってもらいたい。
- ◆ 講座の内容
 - ・中国に関するニュースを入口として、爆買いやマナー違反などの社会現象や、昔学校で学んだ儒家文化の中国との違いはどこから生まれた、現在の共産主義中国の国文化に育った国民性など自分なりの視点から、みなさんにも中国についてもう一度考えてもらいたい。
- ◆ 受講生の声
 - ・自分が知っているだけの視野に固定されていて直すべきだなと思った。
 - ・もともとすごく興味があった中国だったけど話を聞くだけでなく実際に行ってみたいと思ったし、言語にも興味を持たた。
 - ・今の中国と昔の中国との180度くらいの違いを考えさせられました。
 - ・中国のマナーについて、歴史的な背景という新しい視点から学ぶことができました。
 - ・今まで表面しか見てなかった中国について詳しく知ることができ、とても興味深かった。

講座 F

人の往来～福島県からブラジルへ

講座担当者：石田 セシリア さん（チームブラジル）
宮島 ナタリア 香 さん（平成30年度福島県県費留学生）



- ◆ 講座のねらい
 - ・ ブラジル日本移民の歴史を知る。福島県からも多くの県民がブラジルへ移住している。若い世代の県人会活動や教育現状を伝える。
- ◆ 講座の内容
 - ・ 今から58年前に、ある一家が福島県からブラジルへ移住するブラジル移民の歴史を紹介する。
 - ・ 移住生活の苦労や福島県に縁のある人々が設立したブラジル県人会の今とブラジルの教育の現場の様子を伝える。
 - ・ 移民110年の歴史から今後の日本語ブラジル、福島県とブラジルの交流の発展に寄与するための提案を行う。
- ◆ 受講生の声
 - ・ ブラジルの文化や国について聞いた。今のブラジルからブラジルの歴史まで聞くことができ勉強になった。
 - ・ ブラジルと日本のつながりが多いということを知れたので良かった。移民について興味深い話を聞いた。
 - ・ ブラジルと日本の交流について学びました。これからも、もっとこのつながりを良いものとして繋げていきたい。
 - ・ ブラジルの歴史や他国暮らしした日本人の苦労を知ることが出来た。
 - ・ 現地生活をされた方の、生の声が聞かれて、良かったです。教育制度など詳しく聞ければ更に参考になった。

講座 G

JICA ボランティア募集のあれこれ

講座担当者：飯部 つかさ さん （JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 募集広報担当）



- ◆ 講座のねらい
 - ・ JICA ボランティアに参加してみたい、興味がある人向けに応募・派遣システムを伝える。
- ◆ 講座の内容
 - ・ JICA ボランティアのシステム説明（任国派遣前・中・後）
 - ・ 青年海外協力隊の体験談
 - ・ 海外（開発途上国）の生活文化について
 - ・ 訓練の様子ビデオ
 - ・ 東ティモール紹介ムービー
- ◆ 受講生の声
 - ・ とてもおもしろかったしボランティアの制度についてよくわかった。
 - ・ 東ティモールの食が良くわかりました。子供の集合写真を見てすごく楽しそうで幸せそうな顔をしていた。
 - ・ 青年海外協力隊での現地の暮らしを詳しく聞いてとても興味がわいた。
 - ・ 発展途上国でどのような活動をしているのか青年海外協力隊になった後は何の仕事についているかなど詳しく聞くことができた。
 - ・ ボランティアへの興味・関心が深まりました。より英語を勉強しようと思いました。



クロージングセッション1



(16:00~16:40)

1 1日目の振り返り

全体講師：八木 亜紀子 さん（認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR））



◆ 講座のねらい

- （1）自分の学びとほかの参加者の学びを共有し、確認すること。
- （2）今後の実践へのモチベーションを高めること。

◆ 講座の内容

- ・導入：違う講座に参加したものがグループになり、自己紹介。
- ・展開：それぞれのグループで1日目の講座で学んだこと、初めて知ったこと、もっと知りたいこと、納得できないことについて話し合ってもらおう。
- ・まとめ：思い浮かぶキーワード（単語）を紙に書き出し、シェアする。

◆ 受講生の声

- ・楽しかった。知らない話しをするので緊張感も刺激もあります。
- ・同じスケジュールで1日を過ごしたが感じる感じが人や年代によって違くておもしろかった。また、それを聞いて自分でも考え方がまた広がって良かった。
- ・最後に今日一日の振り返りをしたことで自分の中で頭の整理をすることが出来た。改めて、今日ここに来れて良かったと思いました。
- ・他のセッションも気になっていたのでシェア出来て良かったです。
- ・キーワードには「後悔」でしたが、まだまだ自分も「若い！」「やれる！」とも思える1日でした。

2 1日目終了の挨拶

公益財団法人福島県国際交流協会 事務局長 橋川 敦子



🍁 宿泊オリエンテーション 🍁 (16:50~17:30)

施設の使い方、グロセミカフェ、夕食についての説明、翌日の自主セッションのPRを行った。



🍁 夕食 🍁 (18:00~18:50)



- ◆ 受講生の声
 - ・ 昼とは違う人と関わって良かったがもっと自由に動いて話せる立食式のほうが好き。
 - ・ 豚の角煮がとても美味しかったです！きくらげはおかわりしました！もっと他の生徒の人と交流すれば良かったなと思いました。
 - ・ 結構時間がありゆったりと過ごすことができた。交流しながらご飯を食べると楽しい。
 - ・ 年上の人などと話すことができて良かった。自主性が大事だと思う。
 - ・ 全く知らない人と話せて良かったです。くじ引きでも面白いと思います。(昨年の参加者から聞きました。)

🍁 グロセミカフェ 🍁 (19:00~20:30)

夕食後の時間を使って、グロセミカフェと題して講師とのフリートーキングの時間を設けた。参加者は、飲み物を片手に講師のブースを自由に移動しながら、気軽に話を聞くことができた。



◆ 受講生の声

- ・ ラオスに小学校を作る話を聞きました。幼いながら誰かのために働こうとする子供たちの心の優しさ、思いやりに感動して泣いてしまいました。
- ・ 自分の進路について相談することができました。1対1で質問に答えてくれたのでとても嬉しかった。
- ・ 時間入れ替え制の方が色々な方の話を聞けて更に良かった。1時間半があつという間でもっといろいろ話を聞きたかった。
- ・ 自分の悩みについて相談にのってもらったり、自分の知りたいことを知ることが出来たので良かった。
- ・ セッションだけではわからなかった深い内容もゆっくりお話しをすることができた。

協力隊訓練模擬体験 (6:30~7:00) 9月23日(日)

協力隊の模擬体験として、ラジオ体操とランニングを行った。



自主セッション (8:30~9:20)

- A Let's Talk : 世界や社会のあんなこと・こんなこと
講座担当者：安積黎明高校イングリッシュクラブさん



◆ 講座PR文

- ・ みなさんは世界でどんなことが起きているか知っていますか？世界中で起きている様々な出来事について、私たちが考えたことを6つのグループに分かれて英語で発表します。発表の準備を通して驚いたことや気になったことを皆さんと共有し合いたいと思います！ぜひお越しください！

◆ 受講生の声

- ・初めて自主セッションをしたが、思ったより来てくださった方が、話を聞いて意見をシェアしてくださり楽しかった。改めて知るとおもしろい。
- ・来年は、多くの高校生の発表のブースを設けられると良いと思いました。これからが楽しみです。
- ・自分の意見を少しでも届けることができたと思いました。初めての体験でとても刺激を受けました。
- ・社会でおかしなことを高校生の視点での話を聞くことができました。
- ・発表するのは緊張したけどいい経験になった。

B 国際バカロレア Personal Project 高校生からのメッセージを発信します！

講座担当者：仙台育英学園高等学校さん（秀光コース5名、外国語コース生2名）



◆ 講座PR文

- ・それぞれが探究学習として探究したテーマを地域に発信するプロジェクトです。カナダ研修で培った社会貢献力、アニマルセラピーによる自殺予防、障がいを抱えた方と作成する音楽療法、空手を通したコミュニケーションなど高校生が皆さんにメッセージを発信します。たくさんの方に聞いていただき、コメントをいただくと嬉しいです。

◆ 受講生の声

- ・高校生の時に考えもしなかったテーマを取り上げていてスゴイと思った。
- ・高校生達は外国絵馬のことを聞いておもしろくて特別昔、日本移民のことを感動しました。
- ・高校生の実体験を基に貴重な話を聞くことができた。
- ・高校生が主体となって自分のやってきたことを発表しているのはきらきらしていて勉強になった。
- ・みなさん自分のやっていることに誇りと自信を持っているところがすばらしいと思いました。

C 海外経験のない私の成長日記

講座担当者：小野田 恵佳 さん（麗澤大学）



◆ 講座PR文

- ・海外に行きたいと思いながらも未だ行くことができている私がここまでどうやって成長することができたのか。その背景には人生を変えてくれた高校時代の3年間がありました。聞きに来てくださると嬉しいです。

◆ 受講生の声

- ・若さの自発性が素晴らしかった。
- ・1つ上の年齢でここまでスピーチできることがすごい。視野が広がりました。

- ・キーワードで明確に、自分の指針とすることができた。
- ・挑戦！感謝改めて重要であることを再認識しました。
- ・学級委員や生徒会役員など同じ活動をしていて親近感がわきました。

D Why do Japanese People study English?

講座担当者：齋藤 優香さん、渡邊 絢音さん、村上 友耶さん（安達高校）



◆ 講座PR文

- ・Let's study English?…No! No! Let's speak English in this time!
私達はなぜ英語を学ばなければならないのでしょうか？世界各国で学ばれ、使われている英語。その大切さとは…

◆ 受講生の声

- ・高校生のレベルの高さに驚き。
- ・じゃんけんのゲームを取り入れていて良かったです。英語を勉強する理由、大切さにとても納得しました。私も英語がんばりたいと思います。

E 運命に導かれて～ルワンダの未来を担う子供達のために～

講座担当者：事務局長 永遠瑠 ルーシーさん 副理事長 宍戸 なつ美さん
(NPO 法人ルワンダの教育を考える会)



◆ 講座PR文

- ・理事長マリールイズの28年前の協力隊員との出会いから、ルワンダ内乱を経て現在の活動にいたるまで、またその活動の紹介を、その時の隊員だったなつ美と、その時に生まれた娘ルーシーが思い出を交えながらお話しします！

◆ 受講生の声

- ・なつ美さんの体験談が非常に興味深く引き込まれました。
- ・ウガンダは内戦が凄いは知っていましたが、子供たちのために活躍していることに感動した。
- ・ルワンダの教育の進展について知ることが出来ました。発展途上国の教育にも興味があるのでスタディーツアーにいつか参加したいです。
- ・ルワンダにある学校での取り組みや、これから改善していくために努力していることがたくさんあって、とても聞いていて楽しかった。

F 徳島県上勝町の夏休み～高校生キャンプを支える人たち～
講座担当者：吾妻 久 さん（郡山高校）



◆ 講座PR文

- ・徳島県上勝町では、東北大地震以降、福島県の高校生を招いて交流キャンプが7年間にわたり続いています。今でも福島県を応援してくれるステキな地元の方たちとゼロウエイスト宣言一号の町の話です。お立ち寄りいただけただけなら幸いです。

◆ 受講生の声

- ・海外青年協力隊が徳島で年に一度キャンプを行うことを知ることができそれによって様々な学びを高校生が経験できているため今後も続いてほしい。
- ・徳島県上勝町での高校生の交流の話をうかがい興味深かったです。交流を継続するためにどうすればいいか考えさせられました。

G 新たな世界へのトビラー—韓国とタイの留学生による発表—

講座担当者：ガン・トーンラーアーさん、チョ・ソンフン さん（AFS 日本協会 留学生）



◆ 講座PR文

- ・3つの文化で育てられた自分の経験から、国際結婚についての話と、日本人が何気なく外国人にする質問やコメント等を外国人に違和感を覚えさせることについて話します。私の実体験をもとに異文化交流のあり方についてお話します。

◆ 受講生の声

- ・高校生の2人が一生懸命に発表している姿に感動しました。
- ・他国の人としての民族様式について知れて良かった。タイについても事実は知っていてもその背景は知らなかったりするので知れて良かった。
- ・2人とも自分より年下なのに母語以外の言葉が流暢だけでなくグローバルな視点で未来を考えていく1人の人間として尊敬した。
- ・発表がおもしろくプレゼンの構成が良かった。
- ・留学生がどのような思いで日本語を勉強しているかがわかった。

H 世界青年の船体験談

講座担当者：松井 智宏 さん（船と翼の会ふくしま）



◆ 講座PR文

- ・内閣府青年国際交流事業の一つである「世界青年の船」。11か国から集まった240人の青年はその船の中でどんな活動をしているの？そこでの生活はどんな感じなの？このプログラムを通して私が感じたことを交えてお伝えします。

◆ 受講生の声

- ・世界の人々との交流について詳しく聞くことができ良かったです。
- ・青年の船について初めて知れた。このようなプログラムがあるとは思っておらず知れてよく聞けて良かった。
- ・世界船の概要を分かりやすく知ることができました。多文化共生について改めて考えることができました。
- ・世界青年の船体験談が興味深い内容でした。
- ・知らなかった交流の機会など、団体があることについて聞けて良かったです。

I 現在、6ヶ国語目を研究中の語学スクール代表が教える語学学習の秘訣

講座担当者：サインブヤン オドバヤル さん（リングイスト語学スクール代表）



◆ 講座PR文

- ・日常会話程度であれば、一般的に200時間が掛かると言われている語学学習ですが、効率よく学べば20時間にも落とし込むことも可能です。英単語100個を10分で覚える記憶術や、発音を1日でネイティブに出来る音韻学の知識など、本セッションでは超お得な秘訣を沢山公開しちゃいます！

◆ 受講生の声

- ・目からウロコの話ばかりで取り入れて勉強していこうと思った。
- ・これから学んだやり方で習得しておこうと思います。
- ・今まで知らなかったことが学べて良かった。もっと長い時間だと良い。
- ・語学を学ぶコツを知ることができてとても良い機会になりました。
- ・勉強するポイントと順序がわかった。私にもできるかもという気持ちと、今からやらねばという気になった。

🍁 セッション3 🍁 (9:35~10:45)

講座 A

船乗りから見た世界のあれこれ

講座担当者 : 加島 恵治 さん (商船三井興産株式会社 (JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 料理長))



- ◆ 講座のねらい
 - ・ 普段、なじみのない貨物船やその他の世界をめぐる船の紹介。
 - ・ 世界を船でまわることから得た情報やハプニングを伝えながら、旅行では味わえない外国の魅力を紹介。
- ◆ 講座の内容
 - ・ 写真を見せながら貨物の積み方、バランスを伝えた。
 - ・ 世界各地の料理や見どころを紹介。
 - ・ 運河の必要性和実際の運河通過の方法 (いろいろな方法がある)。
 - ・ いろいろな国の側面、特に旅行で見れるのはその国のほんの一部であることを確認。
- ◆ 受講生の声
 - ・ 武勇伝の数々、驚き、あきれ、楽しみました。
 - ・ 船乗りの仕事は、危険と隣り合わせなのだを知った。
 - ・ 料理長の数々の港町での酒と女と強盗の体験を伺って古き良き船乗りの感がし、おもしろかったです。
 - ・ 船で旅をしたことがないので、船上、陸上での生活を楽しく聞くことができた。
 - ・ シェフの話、とてもおもしろかった。スラム街の話等、ワクワクした!

講座 B

リアル世界を旅する

講座担当者 : 藤井 靖史 さん (会津大学 産学イノベーションセンター)



◆ 講座のねらい

- ・旅を非日常だけでなく日常に感じてもらい、エキサイティングな人生を送って頂ければと思っております。

◆ 講座の内容

- ・日常生活で大事にしていること「3つ」を紹介して、参加者にディスカッションしてもらいつつ、対話していく。

◆ 受講生の声

- ・社会に生きる学問的裏づけとなる素晴らしいプレゼン・発表を聞かせていただきました。
- ・感動するくらい勉強になりました。ここで習ったことは、一生の糧になると思います。
- ・笑いが起きるような楽しい講座でした。自分をフロー状態に保つのは大変そうですがやってみたいと思いました。
- ・旅のことだけでなく、仕事や人生において大切なことを学ぶことが出来ました。教わったことを忘れずに、人生何があるかわからないけれど楽しもうと思いました。
- ・人生を楽しむ法則を分かりやすく伝えていただきました。

講座 C

Let's talk about cross culture : using easy English

講座担当者 : FRANCIS AMIMO OKOTI さん (JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 (語学講師))



◆ 講座のねらい

- ・Talk about cross culture

◆ 講座の内容

- ・Knowing each other through Q & A.
- ・Exchanging ideas (Information Exchange)
- ・Introducing Kenyan culture through pictures and communication.

◆ 受講生の声

- ・英語が使える講座でとても楽しかった。
- ・とても素敵な方で、人前で話すのが苦手でしたが丁寧に教えてくださり耳を傾けてくださって充実した1時間になりました。
- ・ケニアのこともよく知れたし英語でのコミュニケーションだったので良かった。
- ・ケニアのこともよく知れました。陸上が強いのイメージのみでしたが、今回の授業で文化・食事・生活の様子が変わりとても楽しい授業でした。
- ・私でもわかる英語が多くて、楽しかった。聞き取りやすかった。

講座 D

旅へ My journey

講座担当者：菅野 ひかる さん（元青年海外協力隊員／グローバル卒業生（福島県国際交流協会主催事業「ふくしまユースグローバルカレッジ」卒業生））



◆ 講座のねらい

- ①バックパッカーの魅力伝え、興味や関心を引き出す。
- ②海外旅行における安全管理の意識を高める。
- ③何かに挑戦しようとする気持ちを前向きに後押しする。

◆ 講座の内容

・アイスブレイク

- ①旅をテーマにした自己紹介
 - ②「バックパッカーといえば〇〇」風船パスリレーゲーム
- ・グループディスカッション

①旅の失敗に学ぶ安全管理

②犯罪者の視点で考える

・まとめ 「私にとって、旅は〇〇」

◆ 受講生の声

- ・バックパッカーとしての経験を生かし危機管理という最も重要な面での話が聞けたのは大変勉強になった。普段からも気をつけなければと思った。
- ・海外旅行（主にバックパッカー）での注意について教わりました。思ったより安いので、機会があれば挑戦したいと思います。
- ・バックパッカーは非常に夢がある反面、様々なリスクに対する自己責任も考えなくてはと実感しました。
- ・進め方がとても上手くてずっと楽しめました。話を聞いていて今すぐにもでも旅に出たいと思いました！
- ・趣向をこらして工夫して楽しくプレゼンしていらしてすごく参考になった。

講座 E

G' day ! オーストラリアの多文化社会

講座担当者：栗村 フェリシティー さん（いわきコスモポリタンクラブ）



- ◆ 講座のねらい
 - ・オーストラリアや多文化社会について知り、考え方を広める。
- ◆ 講座の内容
 - ・クイズを通してオーストラリアの国、文化、人、言葉について勉強して、多文化って何？についてのワークショップ。
- ◆ 受講生の声
 - ・多文化の問題、多分化共存共生の状態を日本はなかなか始まったばかりだと思う。自分でできることを頑張りたいと思います。
 - ・オーストラリアの多分化社会はとても考えさせられました。日本は血統を1番に考え、日本に住む外国人が日本人になれないというのはとても大きな問題だと思いました。
 - ・大好きな行っただけがない国についてたくさん知ることができました。また、異文化の大切な事を学ぶことが出来たので本当に良かった。
 - ・オーストラリアの多文化社会について深く考えることが出来ました。日本は、まだ多文化社会にまでは、発展していないと思った。
 - ・多文化について、改めて考えることが出来ました。これから日本はどうなると良いのかなど、また考えてみたいと思います。

講座 F

コーヒーが繋ぐ世界

講座担当者：中島 茂 さん（富久栄珈琲）



- ◆ 講座のねらい
 - ・アフリカの個性豊かな珈琲を実際に飲みながら、産地による違いなどを体験してアフリカに興味を持っていただく。
 - ・珈琲を通してアフリカ生産者などのつながりを感じてもらいたい。
- ◆ 講座の内容
 - ・珈琲を实际飲んでいただきながら生産国の取り組みを理解していただく。
- ◆ 受講生の声
 - ・コーヒー初心者でしたが色々な味を楽しめました。アフリカや中米でも品質向上に向けての産地競争があることを知りました。
 - ・コーヒーによって途上国も発展できるという事を聞いて他の国でもいかせないかと考えさせられた。
 - ・身近な存在であるコーヒーのこと、知らないことがたくさんあるビックリしました。味や香りを実際に感じながらのセッションが楽しかった。
 - ・コーヒーのこと深い！！アフリカの方々を中心に外貨獲得の手段として、より豊心な生活を追求する姿勢は驚きました。
 - ・おいしいコーヒーが飲めました。コーヒー生産国のこと、生産者のことについてもっと知りたいと思いました。

🍁 クロージングセッション2 🍁 (11:00~11:40)

全体講座：八木 亜紀子 さん（認定 NPO 法人開発教育協会（DEAR））

- ◆ 講座のねらい
 - ・2日間のセミナーでの学びを共有し、参加者の今後実践へのモチベーションを高めること。
- ◆ 講座の内容
 - ・導入：違う講座に参加したものがグループになり、自己紹介。
 - ・展開：それぞれのグループで2日間の講座で学んだこと、印象的だったこと、身につけたいスキルやチカラなどについて話し合ってもらおう。
 - ・まとめ：思い浮かぶキーワード（単語）を紙に大きく書き出し、シェアする。
- ◆ 受講生の声
 - ・吸収して再確認ができて本当に楽しかったです。
 - ・2日間を振り返って見て改めて国際協力をしたいという思いが強まりました。
 - ・チャレンジしたいことが見つかったので良かったと思います。
 - ・自分が書いたひとことを実現したいです。



🍁 閉会式 🍁 (11:40~11:50)

- 1 あいさつ
JICA 二本松 所長 洲崎 毅浩



- 2 事務連絡

ふくしまグローバルセミナー2018 アンケート集計

回収枚数 144

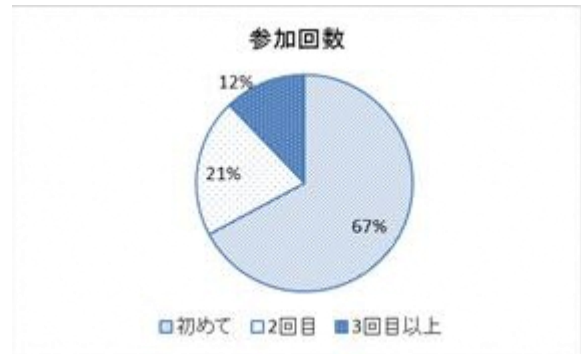
※提出されたアンケートは、すべての項目が記入されているわけではないので、総数と各項目の実数には乖離があります。

グロセミ感想

1 これまで「ふくしまグローバルセミナー」に参加したことがありますか？

有効回答数 131

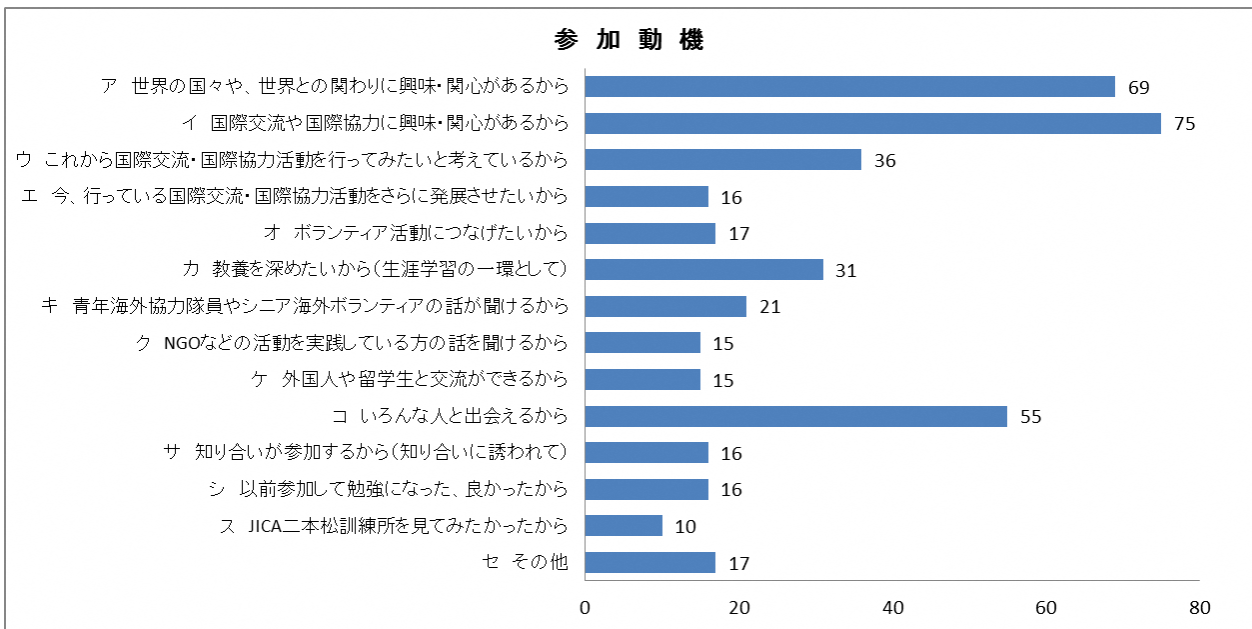
初めて	2回目	3回目以上
88	27	16



2 「ふくしまグローバルセミナー2018」に参加したきっかけや動機は何ですか？
主な理由を3つ選んでください。

有効回答数 133

項目	人数
ア 世界の国々や、世界との関わりに興味・関心があるから	69
イ 国際交流や国際協力に興味・関心があるから	75
ウ これから国際交流・国際協力活動を行ってみたいと考えているから	36
エ 今、行っている国際交流・国際協力活動をさらに発展させたいから	16
オ ボランティア活動につなげたいから	17
カ 教養を深めたいから（生涯学習の一環として）	31
キ 青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアの話が聞けるから	21
ク NGOなどの活動を実践している方の話を聞けるから	15
ケ 外国人や留学生と交流ができるから	15
コ いろんな人と出会えるから	55
サ 知り合いが参加するから（知り合いに誘われて）	16
シ 以前参加して勉強になった、良かったから	16
ス JICA 二本松訓練所を見てみたかったから	10
セ その他	17



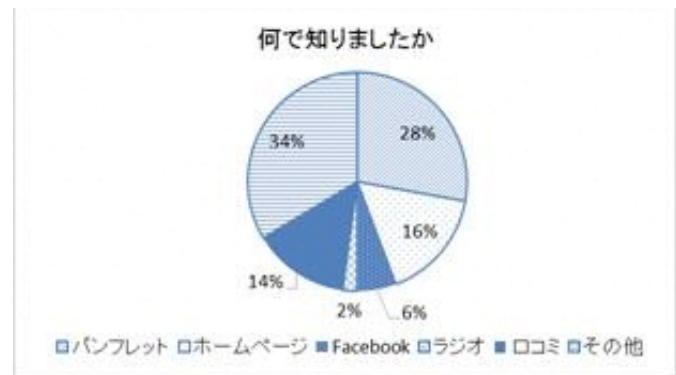
3 「ふくしまグローバルセミナー2018」を何で知りましたか？

有効回答数 127

パンフレット	ホームページ	Facebook	ラジオ	口コミ	その他
39	23	8	3	20	47

(その他)

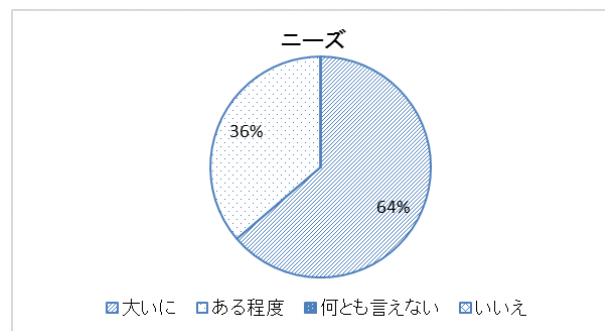
- ・先生からの案内・・・18
- ・学校からの案内・・・15
- ・県国際交流協会・・・5
- ・友人の紹介・・・4
- ・以前参加したため・・・2
- ・無回答・・・2
- ・講師からの紹介・・・1



4 「ふくしまグローバルセミナー2018」は、あなたのニーズに合っていましたか？

有効回答数 128

大いに	ある程度	何ともいえない	いいえ
88	50	0	0



5 「ふくしまグローバルセミナー2018」は、今後の活動に役立つと思いますか？

有効回答数 118

大いに	ある程度	何ともいえない	いいえ
91	26	1	0

